

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103003
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス堀江
所在地	愛媛県松山市堀江町甲844番地6
自己評価作成日	平成22年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力医療機関の支援 支持により日々のリハビリにも力を入れている。外出は月2回マイクロバスも使用して皆で出かけます。又、季節ごとの行事を楽しんで生活にもはりも取れるようにしている。地域の方との顔なじみも増え輪も広がっている。また、食事面でも野菜や旬の物を取り入れた献立も考えている。転倒予防にも力を入れ リハビリにも日々工夫を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を十分に理解した上で、地域との交流を深めている。利用者と一緒に地域の行事や奉仕活動等に積極的に参加し、ホーム主催の夏祭りには地域住民を招いたり、朝の散歩で近所の方とあいさつを交わしている。一人ひとりの思いや意向を汲み取り、利用者と職員が家族のように安心できる関係を築きながら、穏やかな生活を支援し、理念の実践につなげている。栄養士が立てた献立を基に、利用者の好みやホームで育てた野菜も取り入れ、利用者と職員が楽しみながら準備や食事、片付けをしている。専門のリハビリ機器を備え、食事と併せて利用者の健康維持を図っている。また、ホーム内の共用空間も清潔に保たれ、窓からは海が見える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス 堀江

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

堤 裕子

評価完了日

22 年 2 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で地域密着型の意義を理解し、話し合った上で理念をつくり、常に目につくところに提示して共有している。日々の介護を振り返りながら思いやりと尊敬の念を持って介護にあたる様にスタッフ会議でも話しあっている。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、話し合っって理念を作成している。定期に開催するミーティングや毎朝の申し送り時に、理念について話し合いながら日々のケアを振り返り、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域が行う海岸掃除や敬老会、運動会等の地域行事に参加したり、事業所が中心で行う夏祭りなどでは地域の方々にも参加していただき、事業所として利用者と共につながりを持てる様に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 町内の回覧板から情報を得て、利用者とともに敬老会に出席したり、毎月の海岸清掃に参加している。また、保育園児の訪問を受け入れたり、小学校の運動会に参加したり、高校の体験学習を受け入れている。日本舞踊などのボランティアが訪ねてくれることもある。夏祭りを系列のホームと合同で行い、地域との交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議等で職員が受けた研修等を伝達講習したり、利用者の行動や状況を紹介して認知症への理解や支援方法を伝えている。又、地域の方々の介護の悩みや相談にも気軽に応えられるよう声をかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で外部評価、情報公評の結果についての報告を行い出席者に意見を頂いている。今後のサービスにどうつなげていくかも意見を頂いている。今までは、定期的開催されていなかったが、今年からは2ヶ月に1度の開催を目標にしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者、地域代表者、利用者及び家族等の参加を得て、ホームの現状や取組み、外部評価の公表等を議題としている。出された意見や要望を活かして、保育園児との交流もすすめている。町内会長や消防関係者にも参加を依頼しているが、実現には至っていない。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>(自己評価) 夏祭りや施設の行事等にも声をかけ参加を促している。また、迷うことや困ったことがある際には市の担当者に聞き実行している。さらには、地域包括支援センター主催の講習会などにも参加したり 連携を図っている。</p> <p>(外部評価) 市担当者には、日頃からホームの現状を報告したり、分からないことを教えてもらったり、ホームの行事にも参加してもらうなど、さまざまな機会を通して協力関係を積極的に築くよう取り組んでいる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) スタッフ会議などで、具体的な行為を資料やマニュアルをもとに話しあったり研修に行ったり、運営推進会議などでも話題とし、より理解を深めている。拘束介助をしないことを目標に定期的にカンファレンスを実施している。玄関の鍵もかけることなく自由に入出りできるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠しておらず、自由に入出りできる。外出傾向のある利用者には、職員が連携して見守り、一緒に出かけたり、集中できる楽しみごとを提供する等で対応している。職員は、拘束について会議で話し合ったり、外部研修で学び、拘束をしないケアについて理解した上で取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加したり、スタッフ会議等で他施設の職員や当職員で意見交換を行い防止に努めている。又、管理者は職員の体調や気持ちを常に把握できるように定期的に面談を行うと共に、スタッフ全員が常に念頭におき、不審なことがあれば管理者に報告できる体制をつくっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度については研修などにも参加したりスタッフ会議等で話しあったりしている。必要とした利用者については実際に申請を行い後見人をつけている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には理解、納得を得れるように十分な説明をおこなっている。疑問点についても質問できるように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に利用者に意見を聞き問題があればすぐに解決できるように努めている。 (外部評価) 重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、意見箱も設置している。毎月、請求書と広報誌を家族に送り、利用者の状況を報告している。日頃から利用者及び家族と職員が気軽に意見を言い合える家族のような関係が築かれており、直接要望を聞き取って運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的なミーティングを行い職員の意見を聞く機会を持っている。改善提案書を一人一人に書いてもらい、よりよい施設作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、毎月のミーティングで職員の意見や提案を聞き取り、それらを運営者も出席する法人の代表者会議で報告し、運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) その時々の入居者の状態に応じて出勤時間を調整させてもらえる。(食事介助などが入る時など)でも余裕が持てるような業務内容にしていく。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 本人の経験や技量に合わせて、法人内研修や外部研修などへの参加をすることによりスキルアップできるように努めている。パート職員にもサービス向上のために研修参加を促している。スタッフ会議では伝達講習に時間も作っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域の包括支援センターの連絡会を通じてネットワークがひろがりつつある。地域のグループホームの運営推進会議にお互いに出席している。他施設で主催する研修にも参加させてもらいお互いにサービス向上をさせていく取組みをしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前面談で状況把握をし、本人に施設を見ていただくと共に、本人の思いや求めているものを聞きいれており、利用者の声に出来る限り答えられるよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に話しをよく聞き、不安や困っていること等把握した上で、できるだけ解決していくための提案をし、改善に努めることで関係を築いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状況を把握し、何が必要かを見極め状況に応じたサービスや事業所紹介も行ったたりしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に生活していく中で、本人の性格や得意なこと 不得意なことなどを考え利用者が苦痛にならない生活を送れるよう配慮し、または教えていただいたり 助言したりしながらお互いの必要性が感じられるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 相互の情報を交換し、相談、時間を共有する等工夫して関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話や便りを利用し情報交換を行い、今までの関係が途切れないように支援している。外出時には馴染みの店や場所へ行けるよう利用者からの希望を取り入れている。 (外部評価) 昔馴染みの友人がホームを訪問したり、手紙や電話をいただくこともあり、関係の継続を大切に支援している。行きつけの美容院や銀行へは家族が同行して出かけたたり、利用者が楽しみにしている生演奏のカフェに出かけるなど、馴染みの場所との関係継続を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 業務の中で関係を把握し、関わりやコミュニケーションが取れる様に配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も現在の状況を把握する為に訪問したり電話するなど、互いに連絡を取り合っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族、本人の希望、意向をしっかり聞き、個々の生活レベル、また希望に添える生活をしていただけるよう配慮している。	
			(外部評価) 日々の暮らしの中の様々な場面で一人ひとりの意向や希望の把握に努め、困難な場合にはアセスメントや家族からの情報、言動や表情を基にミーティングで話し合い、本人本位に検討している。得られた情報はすべてパソコンに入力し、職員は毎朝必ず目を通してケアにあたるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートやセンター方式等を利用し日常生活でも本人、家族から情報収集を行い、職員みんなが共有できるよう記録し把握につとめている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録や申し送りの活用、職員間の連携により把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族、職員、介護支援専門員等の声を聞きサービスを計画し、又 介護保険更新時の訪問調査にはできるだけ家族の同席をお願いしている。よりよい生活がおくれるようにカンファレンスを行ったうえで計画作成をしている。	
			(外部評価) センター方式を取り入れたアセスメントを基に、本人及び家族、職員が話し合い、それらを反映した介護計画を作成している。担当者を中心にカンファレンスを行い、変化時及び3か月毎に見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録に生活であったことや話した内容等を記入し見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の状況に応じて通院、買い物など必要に応じた支援をおこないサービスを高めるよう努力している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎日の犬の散歩などで、地域の方々と馴染みの関係を構築しており、地域資源を増やしながらより豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携を図り、定期健診や必要に応じて 受診等を行っているが希望のかかりつけ医がいる場合 は、受診できるように支援している。 (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。受診は家族の同行を基本としているが、必要 時には職員が同行している。受診結果を記録し、かか りつけ医と連携しながら適切な医療を受けられるよう に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員と看護師が日常の健康管理を行い異状に気づいた 際はお互いに相談確認して協力医療機関や、必要な医 療機関への受診を行っている。また、その後の看護も 連携をとりながら進めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関との連携により早期診療が可能であり、 早期退院に向けて相談、指示を仰ぐ。入院中は度々 出向き本人への安心感を与える、入院中は医療機関と 共同し連絡を取り合い、早期退院ができるように協力 医療機関にも援助を受けながらすすめている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取り指針を作成しており、入所時に重度化した場合 についての説明している。協力医療機関との連携によ り早期に家族を交え今後の状況について相談してい る。地域の関係者には運営推進会議を通して話し合い 程度しか出来ていない。 (外部評価) 詳細な看取り指針を作成しており、入居時の早い段階 から家族に説明し、状況の変化に応じて繰り返し話し 合っている。職員は、協力医療機関で看取りケアにつ いての研修を受けている。管理者は、現在までの看取 りの経験から、終末期に対して感動と畏敬の念を持 ち、ケアに活かそうとしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、事故発生時に備え、社内研修を行うと共に、施設のマニュアルも整備し、スタッフ全員が心得ている。また、定期的な勉強会も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な訓練を行い、様々な災害に対応できる方法を全職員が身につけている。地域との連携は、運営推進会議で協力が得られるよう働きかけているが、具体的方法を行えるまでには至っていない。 (外部評価) 緊急連絡網や避難マニュアルを作成し、年2回の避難・防火訓練を行っている。それ以外にも自主避難訓練を利用者と共にやっているが、近隣住民の協力を得るところまでには至っていない。	災害時、特に夜間は地域の協力が必要不可欠であり、運営推進会議等を通じて協力をお願いし、また地域の自主防災組織等についても消防署や町内会等に確認しておくことが望ましい。ホームは海岸沿いにあり、今後は水害対策を視野に入れた取り組みにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一人ひとりが言葉遣いや対応にも注意をしている。プライバシー保護の指針も事務所に掲示し皆が閲覧できる状態にしている。 (外部評価) 慣れ親しんだ仲間であっても、利用者一人ひとりに対して節度をもって接し、トイレ誘導や入浴の際の言葉かけや対応には特に気をつけ、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員側で決めるのではなく利用者によってゆったりした時間を与え出来るだけ自己決定できるような環境づくりを大切にしている。また、職員にも利用者からの思いや希望を引き出すためのコミュニケーション技法を身につけてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 常に本人のペースを優先し、本人の過ごしやすい環境づくりを行っている。共同生活なのでホームの決まりごとは大切だが、本人の状況を見極めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の個性や希望にあわせた対応を心がけている。行きつけの美容室に行かれたり、買い物等でも職員が同行し洋服選びなども楽しまれている。通信販売を利用されたりもする。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 常に利用者の好むメニューを取り入れたり、季節に応じたメニューもとりにいれている。出来る方は準備や片付け等を行っていただいている。 (外部評価) 協力医療機関の栄養士が立てた献立を基本に、利用者の好みを取り入れ、利用者と一緒に畑で収穫した野菜も使ったメニューとなっている。利用者の力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの量の把握やバランスの良い食事作りを心がけている。摂取量は毎回記録し状態に応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた口腔ケアは、毎食後、実施され徹底されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを理解しており、定期的なトイレ誘導、声かけをおこなっている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、夜間のみオムツを使用する利用者もいるが、基本的にトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が及ぼす影響をスタッフは理解しており食事についても栄養士と相談し工夫したメニュー作りを行っている。他、毎日のリハビリ訓練の実施や水分摂取にも気を配っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には2日に1度の入浴日と決めているが、拒否等見られたときは曜日をずらしたりして対応している。見守りで入浴できる方については自由に入らせていただいている。毎日の希望の方についても自由に入浴していただいている。	
			(外部評価) 2日に1回の入浴を基本としているが、利用者の希望や状況によっていつでも入浴できるよう、個別に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のパターンを把握したうえで状況や希望に応じて昼寝をとりいれたりして、日中は軽くリハビリやレクリエーションなどで楽しんでいただき、運動と休息のバランスを大切にしている。就寝時も本人の希望にあわせ声かけ、誘導をおこなっている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬の目的、効能、用量などを一覧表にして誰もがわかるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の出来ること、出来ないことを把握しており簡単ではあるが役割を持っていただくことで生活にはりをもっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) マイクロバス等を使用し、希望の多い場所に外出する機会を多く作っている。また、家族の方にも参加していただけるように呼びかけている。地域の方には運営推進会議の席で呼びかけている。	
			(外部評価) 利用者の希望にそって海岸沿いの歩道を散歩したり、ホームで飼っている犬の散歩に出かけ、近所の方とは挨拶を交わしている。また、月2回はマイクロバスで季節の花見や外食、生演奏のカフェやハイキング等に出かけるなど、全員が戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持したい希望があれば所持していただき買い物も同行し、適切に購入できるよう見守っている。それ以外の人に関しては、本人、家族の希望を考慮し、買い物等の機会を作り支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があればかけて話していただく。かかってきた場合も静かなところで話せるように支援している。手紙も切手購入や投函もスムーズに行えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。汚染物も速やかに掃除や消毒をおこなっている。温度、湿度、明るさなどにも気をつけている。リビングや玄関には季節の物を飾りつけしている。</p> <p>(外部評価) 体調や気候に合わせて換気し、太陽光はカーテンで調節している。気になる臭いもなく、食欲をそそる調理の匂いが漂っている。毎朝の清掃で、トイレや浴室は清潔に保たれている。廊下や居間には行事の写真や手芸品、花等を飾り、温かみと季節感を感じ、居心地よく過ごせる空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下の所どころにソファや椅子を設置、そこで日向ぼっこや談笑できるようにしている。気の合う同士にはなるべく近くで過ごせるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には仏壇や使い慣れた家具など、自由に持ち込みをして頂き、過ごしやすい空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室にはテレビ、仏壇、観葉植物、本人や家族の写真、手芸品等が配置され、自分らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) スロープや手すりの設置、段差の解消、身障者のトイレの設備等により自立に向けた生活が送れるよう支援している。</p>	